

川越市地域自立支援協議会

- ・ 令和 5 年度 個別部会 活動報告
- ・ 令和 6 年度 個別部会 協議概要（案）

- ▶ 仕事・活動部会
- ▶ まちづくり部会
- ▶ こども部会
- ▶ 地域移行部会

部会名 仕事・活動部会

1 委員及び関係者（部会長〇）

	氏 名	選出（所属）団体名等
委員	〇 金 澤 昌 敏	社会福祉法人 皆の郷
	大 類 由 佳	埼玉県立川越特別支援学校
	原 恭 子	障害者就業・生活支援センターかわごえ
	八 木 大 介	川越市立特別支援学校
	関 隆 文	川越公共職業安定所
相談員	水 沼 友 美	川越市障害者総合相談支援センター
	小 川 紗也香	川越市障害者総合相談支援センター

* 敬称略

2 開催日

令和6年3月1日（金）

3 協議事項及び概要

(1) 就労支援体制の整備に係る検討

参画委員の所属における進路指導又は支援等について情報共有を図った。

- ・卒業後の進路のみならず、生活上の課題や家庭内の課題を抱える生徒も多くなっているため、卒業時には相談員とつながり、相談できる体制を確保することが大事である。
- ・18歳時において自身の将来を選択するような進路指導に代えて、福祉カレッジのような考え方が今後は主流となっていくのではないかと感じる。
- ・法定雇用率の上昇により企業へ就職しやすい環境は整ってきているが、就職後に定着できずに退職してしまう事例も多くあり、課題と考えている。
- ・高齢化に伴う体調変化のために転職を必要とする事例については、転職先を探すのに苦慮することも多くあり、中高年世代の就労支援への困難さがみられる。
- ・引継ぎ時の支援に関する整理や就職時のマッチング支援等について、就労支援に係る各事業所との連携の強化は不可欠である。相談者に対する動機付けの段階で多くの支援者が関わることのできる体制が構築されることにより、希薄化してきている支援者間の連携が深まるのではないかと思う。

(2) 余暇活動の推進に係る検討

令和4年度実施の「学生の余暇活動に関するアンケート」を基に協議を実施した。

- ・当事者の想いを大事にしながら、新たなエネルギーを充電できる余暇活動の場所は重要であるため、そのような場所が広まれば良いと思う。
- ・余暇活動のキャッチフレーズとして「寄り道・止まり木・ほっと一息」を考案。

(1) 個別事例及び支援体制に関する課題についての情報共有

(2) 就労支援体制に係る関係機関との情報共有及び連携

(3) アンケート等を活用した障害者等の余暇活動の場の協議

部会名 まちづくり部会

1 委員及び関係者（部会長〇）

	氏 名	選出（所属）団体名等
委員	〇金 本 徳 夫	社会福祉法人 親愛会
	阿 部 浩 一	社会福祉法人 川越にじの会
	内 山 智 裕	社会福祉法人 けやきの郷
	大 森 三起子	大森三起子法律事務所
	高 梨 雅 子	川越市社会福祉協議会
相談員	山 田 英 紀	川越市障害者総合相談支援センター
	茂 木 将 史	川越市障害者総合相談支援センター
	炭 谷 さつ子	川越市障害者総合相談支援センター
関係者	種 子 幸 奈	弁護士法人 川越法律事務所
	大 畠 宗 宏	地域生活支援拠点事業受託事業者
	小 関 恵 美	地域生活支援拠点事業受託事業者

* 敬称略

2 開催日

令和6年3月5日（火）

3 協議事項及び概要

(1) 地域生活支援拠点に係る検証及び検討

- ・緊急保護等の支援事例等も増えてきており、多機能拠点型としての機能に限界が感じられる。そのため、川越市の規模に応じた効果的な地域拠点の活用のために、面的な整備についても検討されたい。
- ・体験の機会の提供に関する機能については、障害者支援施設への入所の選択を安易なものとしなないための機能も有していると考えられる。その点について、障害者支援施設への入所者数の増減について把握することによって、地域生活支援拠点の有する機能の重要性が確認できる。
- ・医療的ケアを必要とする方の受け入れ先についての検討も必要と感じる。

(2) 日中サービス支援型指定共同生活援助事業の実施状況等の評価

- ・評価結果は、全事業者（3法人）について「問題なし」と評価する。
- ・本評価における評価シートの各項目について、より適切な評価の実施のために改善されたい。
- ・運営状況等の評価について、書面とヒアリングの併用による評価を検討されたい。
- ・質の担保のために、指定申請時における事前評価を検討されたい。
- ・まちづくり部会で評価を実施する体制が適当であるかについて検討されたい。評価項目においては、他部会の協議事項に関連する項目も含まれるため、全体の部会に影響すると考える。

(1) 個別事例及び支援体制に関する課題についての情報共有

(2) 相談支援体制の推進に係る協議

(3) 地域生活支援拠点及び日中サービス支援型指定共同生活
援助事業の検証と評価

*評価方法及び評価の実施体制については検討とする。

部会名 こども部会

1 委員及び関係者（部会長〇）

	氏 名	選出（所属）団体名等
委員	〇溝 井 啓 子	チューリップ親の会
	遠 藤 政 子	川越手をつなぐ育成会
	水 見 哲 也	社会福祉法人 ともしき会
	柳 沢 真理子	一般社団法人 川越市医師会（川越市訪問看護ステーション）
	吉 田 将 史	社会福祉法人 ハッピーネット
相談員	新 津 重 隆	川越市障害者総合相談支援センター
	名 取 奈 美	川越市障害者総合相談支援センター

* 敬称略

2 開催日 令和6年3月8日（金）

3 協議事項及び概要

(1) 障害児の支援に係る協議について

委託相談員より報告された2事例について、情報共有及び意見交換を実施した。

- ・強度行動障害のある児童の支援の際には、職員による対応を手厚くする必要がある。行動上の課題については、福祉サービスの提供のみではなく、医療との適切な連携は重要であり、また、学校と「サポート手帳（特に教育プランAB）」又は「個別支援計画」の活用による適切な連携も望まれる。なお、児童の保護者に対するペアレントトレーニングの活用も検討されたい。
- ・放課後等デイサービス事業所の支援プログラムとしてスイミングを取り入れている事業所もある。各事業所が様々な支援を取り入れる中、強度行動障害のある児童の特性に応じた支援を提供している事業所の情報を整理し、各機関が共有、連携することが必要である。
- ・特別支援教育コーディネーターや通級指導教室の先生等と教育支援に係る連携を強化し、通常学級で学べる環境を確保していくことも必要である。

(2) 医療的ケア児の支援に係る協議について

医療的ケア児の支援に係る協議の場について共有を図った。

- ・医療的ケア児支援法等の医療的ケア児に関連する法令を理解し、法改正又はその他の関連する情報に注視しながら協議していきたい。
- ・「保育所等での医療的ケア児の支援に関するガイドライン」の作成について協議していきたい。また、コロナ過で停滞した「サポート手帳」の周知や活用についても協議していきたい。

(1) 個別事例及び支援体制に関する課題についての情報共有

(2) 障害児の支援に係る協議

(3) 医療的ケア児の支援に係る協議

部会名 地域移行部会

1 委員及び関係者（部会長○）

	氏 名	選出（所属）団体名等
委員	○高 橋 幸 裕	尚美学園大学
	岩 間 亜 希	川越市保健所 保健予防課
	檜 村 千 寛	NPO法人 サポートあおい
	西 川 祐 一	一般社団法人 川越市医師会（西川病院）
	吉 澤 眞佐子	川越市やまぶき会
相談員	宮 田 一 久	川越市障害者総合相談支援センター
	島 野 直 哉	川越市障害者総合相談支援センター
関係者	野 沢 桂 子	川越市やまぶき会
	戸 田 竜 也	相談支援事業所ヨハク

* 敬称略

2 開催日

令和6年3月11日（月）

3 協議事項及び概要

(1) 精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム（にも包括）に係る協議

- ・「にも包括」について再認識し、地域移行部会の協議経過について共有を図った。
- ・川越市の現状及び国等の動向について共有を図った。

(2) 地域移行支援モデルケースの進捗について

委員及び関係者より報告された事例について、情報共有及び意見交換を実施した。

- ・家族の高齢化等による支援力低下を理由とした入院の長期化傾向が多くみられる。長期入院となる様々な理由にこそ、地域課題があるのではないかな。
- ・入院患者、医師、看護師などに対して「地域移行とは何か」の本来の意義や目的を周知する必要がある。
- ・地域移行は、退院させることだけが目的ではなく、対象者が選択の機会を持つために、退院の手前で寄り添うもの（意思形成・意思決定を支援すること）である。選択肢がないために、入院を選択していることが問題であり、課題である。
- ・退院意欲を喚起させるためにピアサポーターの活用を一層図っていきたい。
- ・「にも包括」について、当事者家族や医療機関からのヒアリングによる実態の把握が重要ではないか。また、市内の精神科病院の医療相談員が当部会へ参加できるような体制が望まれる。
- ・退院後の社会資源のひとつであるグループホームについて、支援体制の強化に当たり実態調査の実施や連携強化も望まれる。

(1) 個別事例及び支援体制に関する課題についての情報共有

(2) 地域移行支援モデルケースについての情報共有

(3) 精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムに係る協議